

伝えよう、“親心”

～家庭教育を見なおす IV～

提 言

平成 19 年 3 月

富 山 経 済 同 友 会
教育問題委員会

目 次

1	はじめに	1
2	第4次委員会での実践の状況	2
3	今後の取り組み	5
	（1）家庭でのふれあいの機会の創出	
	（2）家庭教育を見なおすフォーラムの開催	
	（3）課外授業講師の派遣	
	（4）「家族」を対象とした社内見学会等の開催	
	（5）教育関係者等との交流活動	
4	おわりに	7
	参考資料	8

伝えよう、“親心”

～家庭教育を見なおす IV～

1 はじめに

当会教育問題委員会は、平成10年度の委員会発足以来、「家庭教育を見なおす」を主要テーマに、自らの提言に基づく具体的な実践活動を展開してきた。（別紙1参照）

こうした中、安倍内閣の発足を受け、昨年12月には、改正教育基本法が成立し、「家庭教育」に関する条項が新たに盛り込まれるなど、教育再生が国づくりの最重要課題として位置づけられ、まさに国民「総がかり」で議論されようとしていることは、企業経営者の立場からも賛意を表する。

さて、家庭教育を論じる際、犯罪の低年齢化やニート、フリーターの増加などが「家庭教育の低下」に原因があるとの批判が繰り返される。また、教育格差問題や労働時間の増加、子どもたちを取り巻く情報環境なども相俟って、いま、育児、教育に不安を感じる親、子どもの教育、しつけに対して萎縮する親の増加が我々会員からも指摘されている。（P2．意識調査結果参照）。

親であれば必ず有しているはずの子を思う愛情や感性が、日常生活の中での苛立ちや不安、ストレスによって追いやられているからではないか。「完璧な親」を求めるのではなく、自信と覚悟を持って子どもと向き合い、しっかりと愛情を伝えることが大切であろう。

吉田松蔭の句に「親思ふ心にまさる親心」とある。今、子どもたちに届かないメッセージであっても、気概を持って親心を伝え続けることが、現代の親には必要である。「木の上に立ってまでも子どもを見る」親心は今も昔も変わらない。このことを次世代の子どもたちに伝えていくべきではないか。

我々企業経営者としても、「悩める親」を側面的に支援するため、家族とのゆとりの時間を生み出す雇用環境に十分配慮するとともに、従業員の親代わりとして「家庭教育」に大いに関心を持ち、“親心”を伝えていきたい、このことが、優秀な人材の育成、企業価値の創造に繋がるものと考えからである。

次期第5次委員会（19～20年度）では、「伝えよう、“親心”」をスローガンに掲げ、家庭教育支援に関する様々な実践活動を展開したい。元気で前向きな親の姿を子どもたちにアピールすることがこれからの家庭教育には必要である。教育論は議論百出、子どもの数だけ答えはあるのだろうが、我々同友会の実践活動が、学校、地域、家庭の各々の主体が連携しあう、家庭教育再生の『共通言語』となれば幸いである。

富山経済同友会 教育問題委員会

委員長 高田 順一

2 第4次委員会での実践の状況

平成 17 年度に新たなメンバーのもと、第 4 次教育問題委員会（17～18 年度）を発足させ、21 世紀にはばたく子どもたちを育てるにふさわしい「家庭教育のあり方」について検討を行うとともに、過去 3 次にわたる提言の実行を中心に活動した。

(1) 従業員の家庭教育に関する意識調査

当委員会では、昨年 8 月に全会員を対象とした「従業員の家庭教育支援に関する意識調査」を実施し、企業人の立場からの家庭教育に対する現状認識や今後の課題などを探るとともに、今回の提言とりまとめに当たっての基礎資料とした。

【問1】 家庭教育に対する現状認識について伺います。

昨今、家庭における教育への意識、働きかけが低下しているとの指摘がありますが、現状をどのようにお考えですか。次の項目から1つ選んでください。

ア「家庭教育」はそれほど低下しているとは思わない	5. 2%
イ「家庭教育」は確かに低下しているが、まだ深刻な状況というほどではない	40. 2%
ウ「家庭教育」の低下は著しいものがある	50. 5%
エ わからない	2. 1%
オ その他	2. 1%

【問2】 問1(1)でイ・ウと回答した方に伺います。家庭教育が低下したと思う理由については、どのようなことが考えられると思いますか。考えられる主な理由を次の項目から2つ選んでください。

ア 親の過保護や過干渉	33. 3%
イ 親の無関心	18. 2%
ウ 親自身の体験活動の不足	13. 6%
エ 仕事を持つ親の増加	13. 6%
オ 父親の存在感の低下	12. 5%
カ 教育・しつけに自信を失っている親の増加	34. 1%
キ 学校等への教育・しつけの依存	30. 7%
ク 核家族化	20. 5%
ケ 地域(住民)との関係の希薄化	22. 7%
コ わからない	0
サ その他	2. 3%

【問3】 従業員の家庭教育に関して、企業が配慮しなければならないことはどのようなことだと思いますか。次の項目から選んでください。(複数回答可)

ア より利用しやすい育児休業制度の実施	28. 9%
イ 労働時間の短縮	24. 7%
ウ 従業員の福利厚生等の充実	19. 6%
エ ワークシェアリングやフレックスタイムの活用など多様な働き方の導入	38. 1%
オ 家庭教育の重要性に関する意識啓発	43. 3%
カ 配慮は不要	5. 1%
キ その他	4. 1%

問1について、家庭教育が低下しているとの回答が全体の9割を超えているが、うち4割は「深刻な状況ではない」と回答。家庭教育低下の定義が不明確な面も浮き彫りとなった。

問2については、「教育・しつけに自信を失っている親の増加」が最も多く、悩む親の姿を指摘する一方で、「親の過保護や過干渉」「学校等へのしつけや教育の依存」が上位を占めるなど、親の子どもに対する対応に問題があるとの理由が多く挙げられた。

問3については、「家庭教育の重要性に関する意識啓発」が最も多く、従業員に対する意識醸成を挙げる意見が4割を占めた。続いて「フレックスタイム等の活用など多様な働き方の導入」「より利用しやすい育児休業制度の実施」など、雇用環境の充実を挙げる意見が多く寄せられた。

(2) 家庭でのふれあいの機会の創出

■ 「とやま家族ふれあいウィーク」への協力

過去3次の提言に基づく具体的な実践活動として、従業員の家庭において、親子がふれあう機会を創出できるよう、

- i 従業員の出産に際して、絵本を贈る運動
- ii 子ども誕生日に従業員に残業させない運動
- iii 育児のためにタイムリーに休暇が取れる職場環境の整備

の3つの実践活動を推進してきた。

さらに、「明るく楽しい家庭づくり」を推進するため、毎月第3日曜日の「家庭の日」（「とやま県民家庭の日」）を初日とする1週間を「とやま家族ふれあいウィーク」とする富山県の取組みに賛同し、このウィーク期間中における「ノー残業デー」を会員企業に呼びかけた。

■ 贈呈用絵本のリストを作成・提示

平成17年10月に実施された「全国家庭教育フォーラム in とやま」の開催に併せ、贈呈用絵本のリストを作成・提示し、会員はもとより広く一般県民にも絵本の読み聞かせの重要性を呼びかけた。

■ 「わが家のきまり」のすすめ

しつけに一貫性をもたせ、規範意識を身につけさせるためには、家庭でのルールが必要であることから、現代版家訓ともいえるべき「わが家のきまり」の作成を呼びかけるとともに、当会としての標準モデルを提示した。また、会員及び会員従業員を対象に、わが家のきまり実践事例を募集、顕彰するなど、作成の普及啓発に努めた。



現代版家訓「わが家のきまり」授賞式

(3) 家庭教育を見なおすフォーラムの開催

■ 「全国家庭教育フォーラム in とやま」への参画

平成 17 年 10 月に、文部科学省などが主催し開催された「2005 全国家庭教育フォーラム in とやま」に参画し、「企業における家庭教育支援」をテーマに、約 150 名の聴衆を集めた。フォーラムでは、当委員会のこれまでの活動を報告するとともに「わが家のきまり」の作成を提案した。

■ 第7回「家庭教育を見なおすフォーラム」の実施

平成 18 年 11 月には、お茶の水女子大学名誉教授の牧野カツコ先生を招いて、7 回目となる「家庭教育を見なおすフォーラム」を実施した。

牧野先生は、「少子化、核家族化の影響、親戚の少ない子ども、ビデオやゲームの発達などにより、子供の人とかかわる力が弱くなっている」と指摘している。また、「家庭教育に関する国際比較調査 2005」から、子どもと接する時間が少ないことに悩む父親の増加、親になることについての経験や学習がほとんどないまま親になっていることなどの調査結果が説明され、「ワーク・ライフバランス」（仕事と私生活、家族の調和）の充実や、家庭生活を大切にする教育や乳幼児と触れ合う機会の創出などを訴えた。

(4) 課外授業講師の派遣(別紙2参照)

平成 17 年度の派遣回数・人数は 20 回・24 名、平成 18 年度は 14 回・20 名となり、平成 13 年度にスタートして以来、延べ 67 回 91 名を派遣するなど、当委員会が提言した、会員有志がボランティアで始めた交流活動は、富山経済同友会のシンボリック活動として認知されてきている。働くことの意義や進路選択などをテーマに、企業経営者の実体験を交えた授業は、生徒のみならず保護者、教員からも期待が大きい。また、子どもたちへの伝達の仕方や授業の組み立てなどを学習する会員向け課外授業オリエンテーションを実施した。

(5) 交流勉強会の実施(別紙3参照)

教育関係者を対象とした研修会等に講師を派遣するとともに、行政が設置する各種審議会委員にも多数就任するなど、積極的な交流活動を展開した。また、本年 3 月には、富山県中学校長会との意見交換会を実施するなど、学校と企業との連携について意見を交わした。

3 今後の取り組み

(1)家庭でのふれあいの機会の創出

下記のとおり、従来の取り組みについては引き続き継続し、会員への周知に努めたい。

- i 従業員の出産に際して、絵本を贈る運動
- ii 子どもの誕生日に従業員に残業させない運動、
- iii 育児のためにタイムリーに休暇が取れる職場環境の整備
- iv 「とやま家族ふれあいウィーク」の協力

また、新たに次期2ヵ年においては、

- ① 「わが家のきまり」を家族みんなが共有できるよう、『携帯版「わが家のきまり」カード』を作成し、会員各位へ配布する。
- ② 「仕事と私生活、家族の調和」の実現のため、「子育て支援企業エントリー制度¹」への登録を呼び掛け、当会会員企業の過半数の登録に努めるとともに、「次世代育成支援対策支援法」に基づく一般事業主行動計画の届出を促進する。
- ③ 「伝えよう、“親心”」運動を展開し、富山県PTA連合会とも連携を図り、広く県民から「“親心”メール」を募集・顕彰する。

なお、上記取組みに関する会員企業の実施状況については、アンケート調査などを実施し、達成度合いを検証していくこととする。

(2)家庭教育を見なおすフォーラムの開催

過去7回開催したフォーラムの成果を踏まえ、引き続き、会員並びに会員が属する企業従業員を対象にフォーラムを開催する。

また、各企業が個別に企画した家庭教育に関する取組みを支援する「**家庭教育アドバイス講座 in 企業²**」の実施を会員各位へ呼びかけ、従業員への家庭教育支援をバックアップする。

(3)課外授業講師の派遣

実施から5年が経過し、今や当会のシンボル事業として定着していることは誠に喜びに絶えない。教育再生会議第一次報告においても、企業に望むこととして、企業人による課外授業などへの組織的参画が掲げられており、今後とも、積極的に制度の活用を呼びかける。さらには、課外授業オリエンテーションを引き続き実施し、当会会員講師陣の研鑽に努め、制度の質的向上を図る。

¹ 子育て支援企業エントリー制度：「次世代育成支援対策支援法」に基づく一般事業主行動計画を届出た企業を対象に、富山県が、仕事と子育てに積極的に取り組む企業を支援するために創設した制度。登録すると、企業自身のPRはもとより、商工中金の支援（融資金利の優遇）を受けることができます。

² 家庭教育アドバイス講座 in 企業：企業に勤める親（従業員）を対象に、家庭教育に関する事業（講演会・交流会）を企業内で実施することを支援する事業。

さらに、

- ① 課外授業講師の心得として、「命の尊さ」、「いじめは恥ずべきこと」であることを、子どもたちに対して、必ず授業の中で指導する。
- ② 「課外授業活動レポート」を冊子に取りまとめ、県内すべての小・中学校、高等学校に配布するとともに、大学、短大などの高等教育機関へも活動を周知する。
- ③ 課外授業講師を派遣した学校長などとの意見交換会を開催し、制度への要望、評価などを汲み取る機会を設ける。
- ④ 学校内での講義形式の授業に限らず、ワークショップ形式の野外授業、複数回シリーズでの課外授業など、**多様化、具体化する要望にも柔軟に対応**していく。

(4)「家族」を対象とした社内見学会等の開催

「小学生にお父さんの仕事を絵に描きましよう」と問いかけたとき、バス停でバスを待つ父親の絵を描いたりする」、牧野先生は講演の中で、雇用労働者の増加により、子どもたちが父親の仕事を実感できなくなったことが、父親への尊敬の念や権威を希薄にさせる要因ではないかと指摘している。

当会では、従業員の家庭教育を応援する新たな取り組みとして、**子どもたちをはじめ「従業員家族」を対象とした社内見学会の開催を呼びかけたい。**

見学会が困難な場合は、社内報を従業員家族にも配布するなど、会社と家族の接点を増やすことにより、会社を家族に理解してもらう活動に積極的に取り組むこととしたい。企業価値を高めるうえからも重要な観点であると認識しており、会員企業の実践例をホームページで紹介するなど、会員への理解と意識啓発に取り組むこととする。

(5)教育関係者等との交流活動

今後とも、学校長などの管理職を対象とした研修会に講師を派遣するとともに、PTA関係者などとも積極的な交流活動を展開したい。

さらに、企業経営の立場から、**企業が求める人材像の変化などを、学校や地域、家庭などにわかりやすく情報発信**することも必要であると考えており、委員会独自の調査研究にも取り組みたい。

また、牧野先生が調査した「家庭教育に関する国際比較調査 2005」では、日本は親になることの経験や学習がほとんどないまま親になるとの指摘があった。

現在、中学・高校では男女共学の「家庭科」が必修となっている。家庭科の授業を通じて、乳幼児と触れ合うことを体験したり、家族のために衣食住に関する仕事ができる生活技能を身につけることはとても大切である。教育関係者の交流活動の中で、**家庭教育の重要性を次世代の子どもたちに伝えるためにも、「家庭科」教育の大切さを訴えていきたい。**

4 おわりに

藤原正彦氏『国家の品格』でも紹介されているが、会津藩の藩校に入る前、子弟に対して「什の掟」（下記参照）という七か条の約束事がある。

時には理屈抜きで、親の責任において「ならぬことはならぬもの」ということを伝えていく。嘘はつかない、いじめは卑怯なこと、など、「悪いことは悪い」と繰り返し教えることは、親が伝えるべき必要最小限の「親心」であろう。

企業経営においても、「コンプライアンス（法令順守）」経営は、現代社会においての必須条件となっており、さらに、企業の社会的責任（CSR）にいかに対応していくか、積極的な取り組みが求められている。

親、そして企業が子どもの模範となるよう、襟をただし、ルールを守る。そして、安心感のある社会を子どもたちに示さなければ、「親心」は継承されないだろう。

子どもたちは、親を尊敬したがっているはずである。子どもたちから憧れる社会を築くため、親として、企業経営者として、自信と覚悟をもって「親心」を伝えていきたい。

什（じゅう）の掟

- 一つ、年長者の言うことに背いてはなりませぬ
- 二つ、年長者にはお辞儀をしなければなりませぬ
- 三つ、虚言を言うことはなりませぬ
- 四つ、卑怯な振る舞いをしてはなりませぬ
- 五つ、弱いものをいじめてはなりませぬ
- 六つ、戸外で物を食べてはなりませぬ
- 七つ、戸外で婦人と言葉を交えてはなりませぬ

「ならぬことはならぬものです」

別紙 1

これまでの取り組み状況

区分 (委員長名) (活動期間)	提言タイトル	内 容
第 1 次委員会 (黒田 昭委員長) (平成 10・11 年度)	家庭教育を見なおす ～子どもと共に親も 学ぶ～	○「家庭教育を見なおすフォーラム」の開催を提言 ○課外授業講師派遣制度の創設を提言 ○地域コミュニティー支援を提言 ○交流勉強会の実施を提言
第 2 次委員会 (谷道 昭委員長) (平成 12・13・14 年度)	21 世紀にはばたく 子どもたちのために ～続・家庭教育を見な おす～	○家庭でのふれあいの機会の創出を提言 a 従業員やその配偶者の出産に際し、早い時期 から子どもとの交流が深まるよう低年齢児用 絵本を贈ること b 子どもの誕生日には、従業員に残業をさせな い、又は夜勤を免除するなど子どもと一緒に誕 生日を祝うことができるようにすること c 父親である従業員が積極的に育児に参加で きるよう気兼ねなくタイムリーに休暇を請求 し、取得できるような職場環境を整備すること ○教員の企業での研修機会の提供を提言 ○「家庭教育を見なおすフォーラム」の開催 平成 12 年度 3 回 平成 13 年度 1 回 平成 14 年度 1 回 ○課外授業講師派遣 平成 13 年度 6 校へ 11 名を派遣 平成 14 年度 5 校へ 7 名を派遣 ○交流勉強会の実施 平成 12 年度 1 回 平成 13 年度 2 回 平成 14 年度 5 回

区分 (委員長名) (活動期間)	提言タイトル	内 容
第 3 次委員会 (林 和夫委員長) (平成 15・16 年度)	親として、企業人として ～続々・家庭教育を見 なおす～	○家庭でのふれあいの機会の創出 ・贈呈用絵本のリスト作成・提示 ・「家庭の日」の周知 ○「わが家のきまり」のすすめを提言 ○家庭教育を見なおすフォーラムの開催 平成 1 6 年度 1 回 ○課外授業講師の派遣 課外授業オリエンテーション開催を提案 平成 1 5 年度 1 0 校へ 1 4 名を派遣 平成 1 6 年度 1 2 校へ 1 5 名を派遣 ○交流勉強会の実施 平成 1 5 年度 4 回 平成 1 6 年度 1 0 回

別紙 2

【平成17年度】

No.	年月日	学校名	対象	講師名	内容
1	H17.5.13 (金)	富山県立 新川みどり野高等学校	1～5年次(161名)	四十物 直之 (㈱四十物昆布社長)	進路講演会(11:45～12:30) 「社会人として必要なこと」
2	H17.5.13 (金)	富山県立 新川みどり野高等学校	1～5年次(14名)	四十物 直之 (㈱四十物昆布社長)	進路講演会(19:25～20:05) 「社会人として必要なこと」
3	H17.5.20 (金)	富山市立 西部中学校	2年(163名)	林 和夫 (朝日建設㈱社長)	「14歳の挑戦」のための講演会(13:40～14:40) 「社会人としての心構え」
4	H17.6.7 (火)	富山市立 堀川中学校	2年(317名)	藤澤 徹 (藤澤(法務・登記・測量) 事務所 所長)	「14歳の挑戦」のための講演会(14:00～14:50) 「社会人としての心構え」
5	H17.6.17 (金)	富山県立 大門高等学校	1・2年(320名)	新田 八朗 (日本海ガス㈱社長)	進路意識を高める講演会(15:30～16:30) 「これからの日本を担う皆さんへ」
6	H17.7.12 (火)	富山県立 高岡南高等学校	1年(170名)	牧田 和樹 (㈱牧田組社長)	「職業探検」のための講演会(11:35～12:25) 「相手を知るーいい質問をするためにー」
7	H17.7.15 (金)	舟橋村立 舟橋中学校	1年(43名)	林 不二男 (㈱和楽美容室社長)	特別授業「人生の先輩に聴く」(11:45～12:35) 「すなおに感謝しよう」
			2年(34名)	翠田 章男 (㈱トンボ飲料社長)	特別授業「人生の先輩に聴く」(11:45～12:35) 「生きる目的」
			3年(38名)	中園 国広 (三菱商事㈱北陸支店長)	特別授業「人生の先輩に聴く」(11:45～12:35) 「人生明るく、楽しく、前向きに」
8	H17.7.29 (金)	高岡市立 西部中学校	全学年(434)、保護者、 保護司	中尾 哲雄 (㈱インテック会長)	「14歳の挑戦」発表会講演(14:35～15:30) 「夢をもって生きよう」
9	H17.9.22 (木)	黒部市立 鷹施中学校	2学年(72名)	四十物 直之 (㈱四十物昆布社長)	「14歳の挑戦」のための講演会(13:50～14:50) 「目標をもつ大切さ」
10	H17.10.7 (金)	富山市立 蛸川小学校	6年(112名)	吉岡 隆一郎 (㈱文苑堂書店社長)	総合的な学習の時間「夢へのかけ橋」(9:30～10:15) 「社長になろう」
				安川 涼子 (㈱ロザンBICO社長)	総合的な学習の時間「夢へのかけ橋」(9:30～10:15) 「夢に向かって」
				野村 幸司 (日本銀行富山事務所長)	総合的な学習の時間「夢へのかけ橋」(9:30～10:15) 「お金と生活」
11	H17.10.8 (土)	富山県立 魚津高等学校	2学年(239名)	藤田 寛 (日本政策投資銀行 富山事務所長)	進路学習(先輩に学ぶ)(9:00～10:10) 「これからの社会で働くということ」
12	H17.10.28 (金)	富山県立 大門高等学校	全学年(476)、教職員、 保護者	中尾 哲雄 (㈱インテック会長)	進路意識を高める講演会(15:00～16:00) 「私の歩みきた道」
13	H17.10.29 (土)	富山県立 富山中部高等学校	1・2年(560名)、 教職員、保護者	新田 八朗 (日本海ガス㈱社長)	進路講演会(10:00～11:30) 「これからの日本を担う皆さんへ」
14	H17.11.9 (水)	立山町立 雄山中学校	2年(259名)	若林 啓介 (㈱若林商店社長)	特別授業「人生の先輩に聴く」(14:00～15:00) 「私の学んだこと」
15	H17.11.19 (土)	魚津市立 西布施小学校	4～6学年(40名)、教職 員、保護者、地区住民	中尾 哲雄 (㈱インテック会長)	特別授業(10:15～11:15) 「いつでも夢を」
16	H17.12.8 (木)	荒井学園 高岡高陵高等学校	2学年(115名)	金森 米男 (金森産業㈱社長)	キャリア教育講話「夢に向かって」(11:00～11:50) 「明るい日本、人生に希望を」
17	H18.1.20 (金)	富山市立 城山中学校	全学年(377名)	古田 暉彦 (北陸電力㈱顧問)	特別授業(14:00～15:00) 「城山中学生に期待すること」
18	H18.2.9 (木)	立山町立 雄山中学校	1学年(250名)	稲葉 実 (㈱三四五建築研究所社 長)	特別授業「人生の先輩に聴く」(10:00～11:30) 「ロマンとガマンの協奏で青春に挑戦しよう」
19	H18.3.1 (水)	富山市立 東部中学校	全学年(304名)	高木 繁雄 (㈱北陸銀行頭取)	特別授業(13:30～14:30) 「志高くー思いは叶うー」
20	H18.3.2 (木)	富山市立 宮野小学校	6学年(47名)	金澤 正雄 (㈱名鉄トヤマホテル社 長)	特別授業(10:35～11:20) 「あいさつは人間関係の潤滑油」

【平成18年度】

No.	年 月 日	学 校 名	対 象	講 師 名	内 容
1	H18. 5. 10 (水)	富山県立南砺総合 高等学校 福野高等学校	2 学年 (26名)	後藤 涉 (大和証券㈱富山支店長)	特別授業「南砺タイム」 (14:00～15:15) 「社会が求める人材」
2	H18. 6. 14 (水)	滑川市立 田中小学校	6 学年 (60名)	山瀬 孝 (㈱ジエック経営コンサルタント社 長)	特別授業 (13:55～14:40) 「あいさつは人間関係の潤滑油」
3	H18. 6. 16 (金)	富山市立 大沢野中学校	3 学年 (224名)	林 健吾 (㈱サンショウ社長)	進路に関する講演会 (13:30～15:20) 「社会が求める能力と人間像」
4	H18. 6. 20 (火)	富山県立 福岡高等学校	1 学年 (160名)	伊丹 亘 (みずほ信託銀行㈱富山支 店長)	特別授業 (14:20～15:10) 「職業選択について」
5	H18. 6. 27 (火)	南砺市立 福光中学校	3 学年 (97名)	吉岡 隆一郎 (㈱文苑堂社長)	特別授業 (13:40～15:00) 「豊かに生きる」
6	H18. 7. 11 (火)	砺波市立 庄西中学校	3 学年 (108名)	永野 健司 (日興コーディアル証券㈱富山 支店長)	特別授業 (13:30～14:20) 「これからの日本の産業が抱える問題を解決す るには」
				釣谷 宏行 (シーケー金属㈱社長)	特別授業 (13:30～14:20) 「これからの国際社会に必要なこと」
				野村 幸司 (日本銀行富山事務所長)	特別授業 (13:30～14:20) 「日本経済の今と将来」
7	H18. 7. 13 (木)	舟橋村立 舟橋中学校	1年 (37名)	萩原 正剛 (㈱スリー・ティ会長)	特別授業「人生の先輩に聴く」 (13:50～14:40) 「自分が選んだ道と趣味」
			2年 (43名)	中曾 修一 (㈱新湊かまぼこ社長)	特別授業「人生の先輩に聴く」 (13:50～14:40) 「感性と挑戦で人生を楽しむ」
			3年 (34名)	中尾 哲雄 (㈱インテック会長)	特別授業「人生の先輩に聴く」 (13:50～14:40) 「想い出」
8	H18. 9. 21 (木)	黒部市立 鷹施中学校	2 学年 (74名)	金山 宏明 (カナヤママシナリー㈱社 長)	特別講演 (13:50～14:50) 「付加価値の創造 ～夢の実現に向けて～」
9	H18. 10. 7 (土)	富山県立 魚津高等学校	2 学年 (240名)	牧田 和樹 (㈱牧田組社長)	特別講演 (9:00～10:15) 「人として、人間として、一中尾代表幹事に学 んで」
10	H18.11.13 (月)	富山県立 高岡工芸高等学校	2 学年 (194名)	山崎 義明 (㈱山崎製作所社長)	特別講演 (8:55～9:35) 「働く意義」
11	H18.11.22 (水)	富山市立 和合中学校	3 学年 (115名)	横山 哲夫 (北日本放送㈱社長)	特別講演 (13:35～15:00) 「夢と挑戦 ー放送デジタル化に思うー」
12	H18.11.24 (金)	富山県立 小杉高等学校	3 学年 (158名)	金森 米男 (金森産業㈱社長)	特別講演 (14:10～15:00) 「社会のなかで生きる」
13	H18.11.30 (木)	富山市立 堀川中学校	2 学年 (312名)	中尾 哲雄 (㈱インテックホールディングス会 長)	特別授業 (14:00～14:45) 「夢をもとう」
				稲葉 実 (㈱三四五建築研究所社 長)	特別授業 (14:00～14:45) 「一隅を照らすということについて」
				本田 百合子 (本田会計事務所代表)	特別授業 (14:00～14:45) 「感謝の心で。。。」
14	H19. 2. 2 (金)	富山市立 城山中学校	全学年 (376名)	翠田 章男 (㈱トンボ飲料社長)	特別講演「人生の先輩に聴く」 (13:45～ 14:45) 「自らの主 (あるじ) になること」

教育関係者等との交流実績

【平成17年度】

	日 時	場 所	交流の内容	出席者等
1	H17. 5. 30(月) 13:00~14:20	富山県民会館	第1回富山県家庭教育推進県民協議会 委員	高田 順一
2	H17. 5. 30(月) 14:30~15:30	富山県民会館	2005 全国家庭教育フォーラム in とやま 実行委員会 委員	高田 順一
3	H17. 7. 20(水) 14:00~16:00	富山県民会館	富山県道德教育推進協議会 委員	高田 順一
4	H17. 8. 23(火) 9:30~11:30	富山県民会館	富山県学校評価システム推進協議会 委員	高田 順一
5	H17. 10. 9(日) 10:00~12:00	富山全日空ホテル	2005 全国家庭教育フォーラム in とやま 分科会の開催	中尾 哲雄
6	H17. 11. 21(月) 18:15~13:10	(株)阪神化成工業	家庭教育アドバイス in 企業 開催	(株)阪神化成工業
7	H18. 2. 27(月) 13:30~14:30	富山県民会館	第2回富山県家庭教育推進県民協議会 委員	高田 順一

【平成18年度】

	日 時	場 所	交流の内容	出席者等
1	H18. 4. 11(火) 10:30~12:00	水橋ふるさと会館	富山県東部教育事務所管内 小・中・養護学校長研修会 講師	高田 順一
2	H18. 4. 11(火) 10:30~12:00	ウイング・ウイング 高岡	富山県西部教育事務所管内 小・中・養護学校長研修会 講師	松原 吉隆
3	H18. 4. 17(水) 13:30~14:50	大沢野工業高等学校	大沢野工業高等学校PTA・教育振興会 総会講師	寺本 龍昭
4	H18. 5. 17(水) 13:30~14:50	富山県民会館	第1回富山県家庭教育推進県民協議会 委員	高田 順一
5	H18. 7. 20(木) 19:00~20:30	魚津高等学校	魚津高等学校PTA研修会 講師	四十物直之
6	H18. 8. 2(水) 13:00~14:30	富山県民会館	富山県子ども政策県民会議 委員	高田 順一
7	H18. 8. 23(水) 9:30~11:30	富山県民会館	第1回富山県学校評価システム推進協議会 委員	高田 順一
8	H18. 8. 24(木) 18:30~20:00	小矢部市総合保健福祉センター	子育てでミーティングin小矢部 パネリスト	高田 順一
9	H18. 8. 29(火) 13:30~16:30	富山県民共生センター	パネリストディスカッション「仕事と子育ての両立できる職場づくり」パネリスト	高田 順一
10	H18. 10. 28(土) 13:00~16:30	富山国際会議場	「少子化を考える国民の集いシンポジウム」 パネリスト	林 和夫
11	H18. 11. 28(火) ~11:30 (木)	長野県内	学校の第三者評価に関する実践研究	高田 順一
12	H18. 12. 11(水) 12:15~13:10	(株)アイザック・ユ-	家庭教育アドバイスin企業 開催	(株)アイザック・ユ-
13	H19. 2. 1(木) 9:30~11:30	富山県民会館	第2回富山県道德教育推進協議会 委員	高田 順一
14	H19. 2. 8(木) 14:30~16:30	富山県民会館	第2回富山県学校評価システム推進協議会 委員	高田 順一
15	H19. 2. 19(月) 20(火)	ファインネクス(株)	家庭教育アドバイスin企業開催	ファインネクス(株)
16	H19. 3. 7(木) 17:15~18:30	富山第一ホテル	富山県中学校長会との意見交換会	教育問題委員会委員

富山経済同友会 教育問題委員会(平成17～18年度)

(五十音順)

委員会役職	氏 名	会 社 名	役 職
委員長	高田 順一	阪神化成工業(株)	代表取締役社長
副委員長	石坂 兼人	石坂建設(株)	専務取締役
副委員長	金山 宏明	カナヤママシンリー(株)	代表取締役社長
副委員長	千田 由美子	(株)アイザック・ユー	代表取締役社長
副委員長	藤井 久丈	医療法人社団藤聖会	理事長
副委員長	吉岡 隆一郎	(株)文苑堂書店	代表取締役社長
アドバイザー	黒田 昭	(株)三田商会	代表取締役社長
アドバイザー	林 和夫	朝日建設(株)	代表取締役社長
委員	四十物 直之	(株)四十物昆布	代表取締役社長
委員	荒井 泰晴	(株)宝来社	代表取締役社長
委員	池田 恒彦	立山製紙(株)	代表取締役社長
委員	池田 徳郎	富山いすゞ自動車(株)	代表取締役
委員	石橋 弘行	(株)弁慶	代表取締役社長
委員	岡本 満	東京海上日動火災保険(株)	富山支店長
委員	金谷 幸則	(株)金谷工務店	専務取締役
委員	亀谷 義光	住吉工業(株)	取締役会長
委員	木村 繁夫	木村建設(株)	代表取締役
委員	久木野 良樹	みずほ信託銀行(株)	富山支店長
委員	小池 悦子	(株)サンワールド	取締役営業部長
委員	佐々木 千佳子	税理士法人拓新	代表社員
委員	島 竜彦	(株)島石油	取締役社長
委員	高野 啓良	タカノギケン(株)	代表取締役社長
委員	高見 貞徳	富山検査(株)	代表取締役会長
委員	中井 敏郎	東亜薬品(株)	取締役社長
委員	永野 健司	日興コーディアル証券(株)	富山支店長
委員	長谷川 達雄	中央薬品(株)	代表取締役
委員	羽場 光明	(株)タカギセイコー	代表取締役社長
委員	林 健吾	(株)サンショウ	代表取締役社長
委員	林 不二男	(株)和楽美容室	代表取締役社長
委員	平田 俊一	平田印刷(株)	代表取締役会長
委員	藤田 秀和	トップツアー(株)	富山支店長
委員	星名 照彦	(株)星名産業	代表取締役
委員	本田 百合子	本田会計事務所	代表・公認会計士・税理士
委員	前田 圭一	前田薬品工業(株)	代表取締役
委員	松田 千代美	ファインネクス(株)	常務取締役
委員	松任 敏雄	(株)北日本新聞社	専務取締役
委員	茂原 康之	コクヨ北陸新潟販売(株)	代表取締役社長
委員	森口 雅程	関西電力(株)	北陸支社長
委員	横山 哲夫	北日本放送(株)	代表取締役社長
委員	米田 祐康	金剛薬品(株)	代表取締役社長

(以上 40名:平成19年3月1日現在)